《プログラム１：ARワークショップ（概要）》

ルーヴル美術館とDNPの美術鑑賞のための共同プロジェクト「ルーヴル - DNP ミュージアムラボ」で開発されたワークショップです。
AR（オーグメンテッド・リアリティ：拡張現実）技術を用い、ルーヴル美術館の作品を現実風景に展示・撮影する活動を通じて、作品のない場所でも、美術作品に親しむ機会を提供します。

― 活動のねらい ―

- 作品を展示する場所を探し、場と作品の関係性を考えることで作品の特徴をじっくり観察する力を養う。
- 作品を実際の大きさで、現実世界に作品を表示することで、大きい・小さいなど驚きと共にスケールを体感することで、能動的に活動に取り組む姿勢を引き出す。
- グループワークを通じ、コミュニケーション能力を高める。

Dai Nippon Printing co., ltd. 2018 All Rights Reserved.

《プログラム１：ARワークショップ（進行）》

①導入（約10分）
　活動の内容を伝え、タブレットの使い方を学ぶ。

②撮影（約20分）
　タブレットを使って、実際の風景に美術作品を展示し撮影を行なう。

③タイトル付け（約5分）
　撮影した画像にタイトルをつける.

④発表・まとめ（約15分）
　タイトル・撮影の意図・工夫した点などを発表する。

《ディーエヌペンギンを追いかけろ！》

《過去から来たヴィーナス》

●推奨時間・対象

所要時間　45分～1時間
対象年齢　小学生以上
対象人数　2～5人のグループ／2～8グループ

Dai Nippon Printing co., ltd. 2018 All Rights Reserved.

《プログラム2：地球儀ワークショップ（概要）》

《ワークショップ概要》

大日本印刷（DNP）は、フランス国立図書館（BnF）とともに、世界三大コレクションとされるBnF所蔵の地球儀・天球儀から、現存する世界最古の地球儀《マルティンベハイムの地球儀（複製）》を含む特に貴重な55点を、DNPが独自に開発した高精細３Dデジタルシステムによって、高解像度の３Dデジタル化を実現しました。この成果を広く一般に公開するため、デジタルデータを活用した体験型の展覧会をDNP五反田ビルで開催いたしました(2016年2～9月）。その際、開発したワークショップです。デジタルデータから制作した舟形地図を活用し、平面の舟形地図から立体の地球儀を制作すると共に、文化遺産について考える機会を提供します。 展覧会について»http://museumlab.jp/bnf/

＝活動のねらい＝

・世界最古の地球儀を例に、じっくり作品を観察し、モノが語る面白さを体験してもらう。
・デジタルアーカイブデータを使った地球儀制作を通じ、文化遺産を身近に感じてもらう。

撮影の様子

展覧会の様子

≪1492年製マルティンベハイムの地球儀／複製
1847年、ニュルンベルク≫
＊現存する世界最古の地球儀

©origin of source Gallica / Bibliothèque nationale de France

Dai Nippon Printing co., ltd. 2018 All Rights Reserved.

《プログラム２：地球儀ワークショップ（進行）》

●進行

①文化遺産とアーカイブについて知る（10分）
「ベハイムの地球儀」を例に、歴史的、文化的資料とは何か、それを残すことの意味について知ってもらう。

②地球儀を見る（約5分）
現在の地球儀とベハイム地球儀（レプリカ）を比較し、世界の描かれ方の違いを見つけて、みんなでその理由を考えてみる。

③３D地球儀をみる。（約5分）
ベハイムの地球儀のデジタル地球儀（タッチパネル）を自由に回転・拡大し、描かれているものをじっくりみる。

④地球儀制作（約30分）
舟形を切り抜き、球体に貼り付けて地球儀を作る。
1/3程度の貼り付けを目指し、できなかった分は持ち帰って完成させる。

Dai Nippon Printing co., ltd. 2018 All Rights Reserved.